

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : はなみずき石鳥谷

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0372300244 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 宝寿会 | | |
| 事業所名 | はなみずき石鳥谷 | | |
| 所在地 | 〒028-3102 花巻市石鳥谷町上口一丁目3番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年10月28日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年2月14日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人として「人」「心」「安」を理念に掲げ、また「和と笑顔」をモットーとして、利用者様と職員が一人ひとりに寄り添うケアを行っています。コロナ禍である為、地域交流や外出が思うようにできない事が続いています。少しずつ地域交流や外出を支援していきたいと思っています。利用者の皆さんと座ってできる体操やレクリエーションを行い、気分転換を図っています。また、隣接する特養の看護師と連携し体調管理を行っており、医療へスムーズに繋げられるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会 |
| 所在地 | 〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号 |
| 訪問調査日 | 令和4年11月22日 |

閑静な新興住宅地に、法人系列の養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、短期入所生活介護事業所が同一敷地内に立地し、各種委員会の開催、避難訓練等の連携が図られている。日ごろの業務の中で、職員で策定した理念「人」「心」「安」が浸透し、理念に基づいたケアの提供に努めている。介護計画は課題に沿って、具体的に目標設定されており、職員は、介護計画を基に、質の高いケアを提供している。運営推進会議では、家族や地区の代表等から、意見・要望・提案が積極的に出され、事業所運営の円滑な推進のための重要な役割を担っている。職員の提案で、勤務時間の検討など働きやすい環境を創り上げている。事業所は開設から十数年経っているが、清潔で、快適な生活環境が提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|----|--|--|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

事業所名 : はなみずき石鳥谷

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「人」「心」「安」の理念を共有しながら、地域に何が貢献出来るか、また和と笑顔でやっていけるように努力し考えながら業務にあたっている。 | 地域密着型特別養護老人ホームの開設(令和2年)を機に、法人全職員がグループに分かれて話し合って策定した基本理念の「人」「心」「安」をキーワードとし、利用者一人一人のその人らしい暮らしを守り、利用者に寄り添い、安心安全の生活環境の提供に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍で地域の方々との交流が難しいですが、日常的に挨拶を交わしたりしてつながりが持てるようにしている。 | 法人全体の広報誌「和と笑顔・宝寿会便り」を年3回発行し、利用者家族、運営推進会議委員、自治会、行政機関等に提供し、事業所廊下の壁面にも掲示している。コロナ禍以前に交流を続けていた保育園、小学校等との交流は現在行なっていない。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方々に向けて、広報誌等で呼び掛けている。連絡があった時は、お話を伺い力になれるように支援方法や利用施設等についてお伝えするようになっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 定期的に会議を行い、出されたご意見を踏まえ、職員間で話し合いを持ち、工夫して薬の間違いをなくす取り組みを行った。 | 運営推進会議は「特別養護老人ホームほうじゅの郷」と合同開催とし、施設長が進行している。委員は、事業所運営への関心が高く、毎回多くの意見・要望が出され、活発な会議となっている。ヒヤリハット報告に注意喚起の意見が出され、改善に取り組んでいる。特に誤薬については、職員間で検討を重ね「服薬管理表」を作成し取り組みを行ない、誤薬が激減する等、委員からの意見が業務に反映されている。議事録も丁寧に作成され、職員間で情報を共有している。 | 運営推進会議は定期的に開催されている。介護では、活発に意見交換がなされ、委員からの意見・要望が業務改善につながる例もあり、運営会議本来の目的を果たしていると思われる。委員と法人との良好な関係が窺われ、委員の識見も高いと推測される。今後とも引き続き、効果的な運営推進会議の開催を期待します。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議のメンバーに入ってもらっているので、都度相談している。包括支援センターには、利用者の紹介等で相談に伺っている。 | 市の介護保険担当課と、随時連絡をとるようにしている。地域包括支援センター主催の地域ケア会議に出席し、石鳥谷町内の高齢者の状況を把握する機会としている。地域包括支援センターとは、待機者や空床の情報交換等で連携を図っている。 | |

令和 4 年度

事業所名 : はなみずき石鳥谷

2 自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 施設内の研修や、事業所のミーティング等で身体拘束について学び、常に拘束をしないケアを意識しながら日々のケアに当たっている。また、職員間で情報を共有しながらケアを行っている。 | 法人全体の「身体拘束適正化委員会」が3か月に1回開催され、所長が出席し会議内容を職員に報告している。研修会は2回開催されている。スピーチロックについて事業所内研修を実施し、「ちょっと待って」「ダメ」等に気づいた場合、職員同士で注意しあう環境づくりができており、現在は殆ど見受けられない。夜間の転倒防止のため、家族の了解を得て、マットセンサーを1名、床センサーは3名が利用している。玄関は夜間のみ施錠し、外出はチャイムで把握している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員全員が施設内研修を受講し、虐待防止について学び、また虐待を指摘しあえるような環境を作る様にしている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 施設内研修を受け制度を理解している。保佐人を利用している方がいたので、支援を行っていた。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には十分時間を頂き、説明を行い納得して頂いている。また疑問がある時は、何時でも質問して頂きたい事を付け加えている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | コロナ前は家族交流会を開催し家族同士の交流を図ったりしていたが、今は出来ないで手紙等で意見を伺っている。利用者、家族にもっとゆっくり意見や要望を聞く時間が持てればよいと考えている。 | 家族からの「散歩に出して欲しい」等の要望がある。また、利用者からは「洗濯を毎日してほしい」との希望があり、利用者と職員で忘れないよう置き場を決め、要望に対応している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 昨年は職員と管理者で業務等について個人面談を行った。また、施設長と個人面談を毎年行い、要望や意見を言う機会を持っている。 | 施設長と職員の個人面談を年1回行っている。職員の意見をもとに、利用者の朝のケアや朝食の介助が円滑に行なえるよう日勤入りの時間を3形態にし、現在も続けている。利用者の転倒防止のため「眠りスキャン(介護ロボット)」を試行的に導入したところ、職員から「夜勤帯の職員が安心・安全の介護を提供できる」等の意見が出され、法人として購入の手続きを行なっている。 | |

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : はなみずき石鳥谷

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 施設長との面談を通して行われている。給与については、夜勤手当が出るようになったり、資格取得の為に費用や勤務の便宜を図ってもらう事が出来るようになっている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 施設内研修には、なるべく時間の都合をつけ参加できるようにしている。施設外研修については、コロナ禍のため、参加が難しくなっているので、ネット等で参加していきたい。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍の為、同業者との交流は難しくなっているが、法人内での交流は、少しずつ出来るようになってきている。施設外の研修にはネットを通じて参加していきたい。 | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に事前に面談を行い、本人や家族から情報を集めている。また、本人と二人きりなる時(入浴時や夜勤の時)等にお話を傾聴し、ご本人の想いに寄り添うことが出来るようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前面談の時、契約の時に、ご家族からお話を伺い、困っている事や要望等に添う事が出来るようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 事前面談や契約時、申し込みの時にお話を伺い、職員会議を開催し、必要な支援の対応を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 洗濯たたみや食器拭きを共に行い、感謝の気持ちを伝えながら協力し合って一緒に生活している。 | | |

事業所名 : はなみずき石鳥谷

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 出来るだけご本人の言葉や様子をご家族に伝え、共に支える関係でありたいと考えている。その為にも、毎月ご本人の様子をお知らせする「生活状況」をお送りしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ前は、自由に面会に来ていただきお話をさせて頂いていたが、現在はガラス越しであったりしてスムーズに会話ができない状況なので、回想法等を用いた支援を行っている。 | コロナ禍で、家族や知人とは、玄関先でガラス越しの面会となっている。入居時に生活歴・職歴を把握し、日々の生活の中で、「正月やお盆はどんなことしていましたか」等、会話に回想法等を用い、ゆったりとした雰囲気の中で馴染みの人や場所を聞いている。把握した事柄は、介護計画に取り入れている。馴染みの無い人との出会いも大切にしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係作りが出来るように、時々職員が間に入り、活動を共にしたり共通の楽しみを持つなど努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 買い物の時などにご家族にお会いした時、短い時間でも挨拶やお声を掛けるようにしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人の言葉やや思いを職員全員で共有し、希望に添えるように努めている。また、困難な場合は、不満や不安につながらない様に声掛けを行っている。 | 自分の思いを言葉で表現できる利用者は少ないが、職員は利用者の傍らに寄り添い、声かけを工夫し思いや意向を把握している。○○どうですか？と問い、嫌、ダメと言葉ではなくても、嫌そうな表情や仕草から得た情報は、介護実行記録表に言葉、動作、表情等をきめ細かに記録し、職員間で共有している。管理者は、職員が楽しくないと利用者も楽しめないと感じている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用開始等の情報はもちろんだが、経過しているうちに知りえた情報も皆で共有している。ご家族の名前をお聞きする事から始まり、ご両親やご兄弟、子供さんの名前をお聞きし、話題作りに活かしている。 | | |

令和 4 年度

事業所名 : はなみずき石鳥谷

2 自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 特に日課は決めておらず、日々変化する一人ひとりに合わせてケアを行っている。また、ミーティング等で情報を共有している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | モニタリングは居室担当者と計画作成担当者が話し合いながら行い、職員会議を開催しケアプランを作成している。ご家族と話し合いを持つ機会が少なくなっているため、そのような機会を作っていきたい。 | 入居時に、所長(介護支援専門員)が利用者や家族と面接し、これまでの生活状況等を把握し、入居後の生活の様子は、申し送りメモ、業務日誌、個別のケース記録、介護実行表等で情報が職員間で共有されている。計画作成担当者(介護支援専門員)が、介護計画を作成し、サービス担当者会議で意見を聞いて調整し利用者と家族に了承を得て、ケアを実践している。計画作成担当者と居室担当者がモニタリングし、3ヵ月毎に介護計画を見直している。サービス内容は、非常に具体的に記載され、利用者一人一人にどのような介護を行えばよいのか一目で分かるようになっており、きめ細かな介護が実践されている。 | 利用者の思いや日々の生活状況、体調等が一連の様式に、具体的に記載され、職員間で情報を共有する体制が構築されている。介護計画は、所長及び計画作成担当者(共に介護支援専門員)により作成され、課題に沿ったサービス内容に、適切な介護が実践されている。今後もチームとして取り組まれることを期待します。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 「介護実行表」「申し送り」「ケース記録」にて情報を共有している。特に重要と思われる事、例えば薬の変更等については、口頭でも伝えるようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 重度化した場合は、隣接する施設の入浴設備を借りたりして対応するようにしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 家族や運営推進会議のメンバーやかかりつけ医や同一法人の職員などが見守りや声掛けを行ってくれている。安全重視になってしまっていると感じる事がある。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居後も今までのかかりつけ医に通院している方が多いので、家族に代わり、必要な情報がかかりつけ医に届け適切な医療を受けることが出来るように支援している。 | 入居前のかかりつけ医を継続しており、通院は家族同行を原則としているが、家族不都合の場合は職員が代行している。受診時には、かかりつけ医に、健康状態等の情報を伝えている。 | |

事業所名 : はなみずき石鳥谷

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師は週1回訪問してくれて利用者一人ひとりの状態を理解してくれている。また、24時間連絡がとれる体制になっており、必要な指示を仰ぐことが出来ている。看護師のアドバイスにより適切な医療を受けることが出来ている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時には、日常の様子を入院先に伝え、変わりなくケアが継続されるように支援している。入院中の様子は家族や連携室の職員を通じてお聞きしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に重度化した場合について説明し同意を頂いている。しかし終末期になった時、もう一度家族と話し合う事になっている。現在の段階では、看取りは出来ていないので、ご家族にもご理解を頂いている。 | 入居時に、重度化した場合の対応について、家族に説明し同意を得ている。市内に訪問診療対応医療機関がないことから、看取りは実施していないが、隣接している介護施設の看護師の支援を受けながら、事業所で対応可能なできる限りの介護を行なっている。状態の変化に応じ、入院や介護施設等の調整をするなどの支援を行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 家族やかかりつけ医の連絡先を登録し、職員同士しっかりコミュニケーションを取り対応している。AEDを使った研修は年1回受けている。直ぐ見える所に緊急時のマニュアルを貼って備えている。看護師や所長とは24時間連絡が取れるようにしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回法人としての避難訓練を行っている。その他にもホーム独自でも避難訓練を行っている。地域住民との協力体制は、以前は避難訓練に参加して頂いていた。水害避難については、隣接する特養の3階会議室に避難するようになっており、訓練していきたい。 | 隣接する介護施設と合同で、年2回(消防署立会いは1回)避難訓練を実施しているほか、事業所独自に2、3か月に1回、防災頭巾を被り玄関ホールに避難する等の訓練を実施している。訓練を通じ、雨天時の雨具や寒気を防ぐ保温アルミ等の準備が必要であるなどの課題に取り組み非常に備えている。夜間災害発生時の想定訓練も実施している。 | 災害発生に備え、法人全体の避難訓練及び独自の訓練を計画的に実施し、危機管理に努力されている。夜間想定訓練をされているが、今後、実際に夜間の訓練を行ない、暗さの体験や課題を把握され、利用者のより安全な生活の確保に努められることを期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した声掛けを行っている。トイレのプライバシー保護については、作りの問題もあり、転倒の危険がある方は、安全を重視している。 | 利用者には、人生の先輩としての思いをこめて対応し、声掛けは名前にさんづけとしている。聴力が低下している利用者も多く、大きな声になりがちであるが、利用者が不快にならないよう職員間で注意し合いながら対応している。トイレはスペース等の問題もあり職員間で話し合い、安全面を重視してドアではなく、カーテンとし、排泄介助の際には職員がプライバシーに配慮しながら対応している。排泄や入浴の介助時には、同性介助に配慮している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自己決定できるような問いかけを行い、自分の思いで決定できるようにしている。例えば、〇〇しませんか、とか〇〇と△△とどちらが良いですか等と聞いたりして自己決定を促すようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 特別な指示のある人以外は、その方の生活のペースを大切にして支援している。しかし希望を伺っても「何でも良い」と答える方も多い為、職員が中心となってしまっている事もある。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自分で選ぶことができる方には自分で選んだ服を着て頂いている。難しい方には職員が選んでいる。清潔感を大切にしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 現在一緒に食事の準備をすることは無く、職員と一緒に下膳や茶碗拭きを行って頂いている。誕生日や行事の時は本人の好みを聞いて提供し、楽しんでいただけるようにしていきたい。 | 5年ほど前から主菜・副菜はクックチルドを利用し、ご飯と味噌汁は職員が調理している。食後のデザートやおやつ等は、季節の果物を提供する等変化をもたせるよう工夫している。季節や行事にあわせて、ひな祭りのちらし寿司、秋の栗ご飯、芋の子汁、大晦日には昼食を日本蕎麦にしている。食事は、美味しい時は早く食べ終わり、あまり美味しくないときはゆっくり終わるようだ。利用者は、片づけ、テーブル拭き等できることを行なっている。利用者と一緒に調理できないが、調理する時間がなくなった分、利用者へ寄り添う時間が増えたと管理者は実感している。 | |

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : はなみずき石鳥谷

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 管理栄養士や看護師と連携し、その方に合った食事量や形態で提供している。嚥下困難となった方にはソフト食を提供し支援している。水分量の確保の為に、好みの飲み物をお聞きして提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 自分で出来る方は声掛けをして行って頂き、支援が必要な方には職員がお手伝いしている。その方により毎食後にうがいや歯磨きや義歯洗浄を支援している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者の様子を見たり、介護実行表を活用し声掛けを行っている。 | 介護実行表を基に、一人一人の排泄の機能に合わせて対応を検討し、介護計画に盛り込むなど、排泄機能の維持・改善に努めている。排泄機能が低下し、排泄用品の使用が必要な場合には、家族に説明し了解を得ている。入院中リハビリパンツを使用していたが、入居後、自分でトイレに行くようになった利用者もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | かかりつけ医の指示を仰ぎ、看護師と相談しながら便秘薬の服用や便秘の予防が出来るようにしている。体操を行ったり水分量の確保に努めているが、薬に頼る事が多いと感じている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 現在、午前中に入浴介助を行う事が多いが、行事や通院等で午後になる時もある。1日に3人程度の入浴を支援しており、体調不良や拒否があった場合は翌日に入れるようにしている。 | 月曜日から土曜日まで浴室の準備をし、利用者は体調の状況を勘案しながら週2回入浴している。希望により週3、4回入浴する利用者もいる。排泄等で汚れた場合は、随時シャワーを利用し清潔を保つようにしている。入浴時は全身の観察を行い、不安な事柄は常勤の看護師に相談している。浴槽は循環式の家風呂で、利用者からは「石鳥谷温泉」と好評だが、利用者の身体機能が低下してきているため、利用者にも職員にも負担が少ない浴槽を検討している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 安心して休んで頂けるように、テレビの音を低くしたり照明を少しずつ暗くしたりして工夫している。エアコンを使用し適温で休息できるようにしている。 | | |

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : はなみずき石鳥谷

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人ひとりの服薬について、完璧に理解しているかと聞かれると難しいが、分からない時は処方薬の説明書を確認したり看護師に聞いたりしている。特に薬が変わった時は状態の変化について職員間で共有している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの出来る事や楽しみを見つけて支援している。計算や塗り絵、パズル等で楽しむ方もいる。茶碗拭きや洗濯たたみを行って下さる方もいて、気分転換になっていると思う。もっと楽しみを見つけて楽しんでいただきたいと思う。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍で日常的に外出する機会は減ってしまった。通院以外は外出出来なかったが、お祭りには、外に出て見物することが出来た。状況を見ながら外出の機会を作っていきたいと考える。 | コロナ禍のため、遠出は控えているが、敷地内のはなみずきや桜、月見草等で季節を楽しんでいる。かかりつけ医受診の際にドライブしたり、1、2人でのミニドライブを実施している。今年の町内の夏祭りでは、沿道に出て踊りなどの行列を見学でき、利用者は大いに喜んだ。体調を観察しながら、建物周辺の散歩等を行ないたいと考えている。家に帰りたいとする家は、生家のことが多い。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 全員がお金の管理は家族が行っている。施設の自販機で好きなものを購入したり、移動販売の時に好きなものを購入したりする支援を行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族に年賀状を出す支援を行い、喜ばれている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 掲示物は季節感が出るようにしている。暖房や冷房を使用し過ごし易いように温度調整をしている。建物自体は古くなってきているが、毎日掃除を行い清潔な居場所になりたいと思っている。 | 掃除が行き届いた清潔なホール(食堂兼居間)は、冷暖房により随時温度調節し、快適な環境となっている。壁には、行事の写真や手作りの作品等を掲示している。クリスマスツリーの飾りつけは、安全を心掛け必要最小限にしている。職員は、利用者の傍らに座り、話をしながらゆっくりのんびり過ごすように努めている。利用者の多くは聴力が低下しており、職員は大きな声になるが、利用者の歌声、笑い声が良く聞えてくる。多くの利用者は居室よりもホールで過ごすことが多い。 | |

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : はなみずき石鳥谷

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居室以外で一人になれる場所は、食堂と玄関ホールである。それぞれで思い思いに過ごしていると思う。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居の際は使い慣れた寝具やなじみのある服などを持ってきて頂くようお願いしている。ベッドやしつらえ等は建物が出来た当初のままなので、もう少し和室のしつらえも必要かと考えている。安全面も考慮に入れる必要がある。 | 居室には、エアコン、ベッド、クローゼット、洗面台、ヘッドライト、時計、温湿度計、小物入れボックスを備えており、室温は22度に設定している。家族には、使い慣れたものを持ってきてくださいと伝えている。居室の清掃は、利用者も職員と一緒にできることを行なっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレの入り口には「便所」と書いてあったり、居室の入り口には名前が書かれてあったりして、分かりやすいように表示している。出来る事は行って頂けるように安全に配慮して支援している。 | | |